

報告

Astro-HS 全国フォーラム 2017 報告

高村裕三朗（愛知県立一宮高校）、栃倉芳年（名古屋大学）、Astro-HS 運営委員会

1. はじめに

高校生天体観測ネットワーク（Astro-HS）では、2017年3月18日に行われた日本天文学会ジュニアセッションにあわせて、全国フォーラム 2017 を開催しました。

全国フォーラムは、毎年ジュニアセッションにあわせてジュニアセッション第二部（交流の部）の位置づけで開催しています。今年のジュニアセッションの会場は九州大学伊都キャンパスであったため、フォーラムも近くの国立夜須高原青少年自然の家において宿泊形式で開催することになりました。参加者はタイからの参加 20 名を含め、総勢 111 名（内顧問スタッフ 31 名）でした。



図 1 記念撮影

2. プログラム

3月18日（土）

- 16:40 九州大学伊都キャンパス発
- 18:15 夜須高原青少年の家到着
- 18:30 夕食・入浴
- 20:00 全体会 1
 - 開会行事
 - 1 分間スピーチ
 - 天体観望、ライトアート
 - 並行して引率顧問会 1

22:30 就寝、引率顧問会 2

3月19日（日）

6:30 起床・朝のつどい

7:30 朝食

8:30 部屋の清掃、荷物の移動

9:00 全体会 2

タイジュニアセッションへの参加報告（三田祥雲館高校）

SQM が広げた夜空の明るさネットワークの輪（愛知一宮高校）

10:30 閉会行事・記念撮影

11:00 夜須高原青少年の家出発

3. 全体会 1

午後 8 時、全体会が始まりました。各校の顧問の先生方が別室で自己紹介等の顧問会をする一方で、生徒たちはホールに集まって毎年恒例の「1 分間スピーチ」を行いました。これは各校の活動の紹介を 1 分間以内に行うもので、普段の研究内容に加えて活動の苦勞や学校のアピールなど各校工夫に富んだスピーチをしていました。他の学校の“裏話”を聞ける場が珍しく、とても楽しい時間となりました。

タイからの生徒たちも英語で学校紹介を行いました。英語を聞き取るのはなかなか大変そうな様子でしたが、日本の生徒には良い刺激になったのではないのでしょうか。

1 分間スピーチを終えると、天体観測とライトアート作りの時間です。到着直後は一面の曇り空で天体観測を行うことができるかどうか心配でしたが、この時間になると晴れてきて一安心です。生徒たちはあらかじめ指定された学校の垣根を超えた 6 班に分かれ、班ごとに地元福岡県の学校が用意してくれた 2 台の望遠鏡を覗いたり、ライトアートの内容を話し合っ

影に取り組んだりして交流を楽しみました。そうこうしている間に夜は更け、あっという間に就寝時間になってしまいました。



図2 天体観望のようす

4. 全体会 2

少し肌寒く感じた高原の朝、朝のつどいに眠い目をこすりながら参加した生徒たちは、他の団体と一緒に元気よくラジオ体操をしました。朝食を終え、部屋の掃除も終えて、昨晚と同じ全体会の会場へと向かいます。

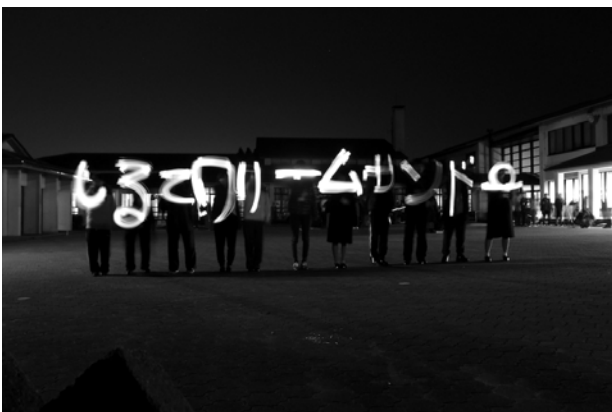


図3 ライトアート最優秀作品



図4 他のライトアート作品

午前9時、全体会の再開です。まずは、昨晚班ごとに作り上げたライトアートの発表を行いました。力作揃いの中、生徒たちの投票によって選ばれた5班の最優秀作品が図3です。

「しるこクリームサンド」というのは、前夜の1分間スピーチである学校から配られたご当地菓子のことです。

ライトアートの発表を終えると、講演の時間です。今回のフォーラムでは、参加校の顧問の先生による「タイのジュニアセッションへの参加報告」と「SQMが広げた夜空の明るさネットワークの輪」についての講演がありました。

2015年12月末、タイのジュニアセッション Astronomical conference に三田祥雲館高校が参加した時の報告が顧問の谷川先生からありました。11月から部活もオールイングリッシュで活動し、天文用語の単語集も作成し、苦勞して準備した様子分かりました。同校からは「小惑星の自転周期の決定」と「太陽黒点の寿命と面積」の2テーマで発表をし、頑張って英語で発表している動画も紹介されました。セッションの後はタイ国立天文台の見学もしています。多くの写真を使って報告されました。

その後タイ一行の代表である MATIPON さんからもタイの国立天文台とジュニアセッションについての補足があり、ハートピア安八天文台の船越さんからはタイの美しい星空の写真が紹介されました。



図5 タイのジュニアセッション参加報告



図6 MATIPON さんからのコメント

続いて高村が夜空の明るさに関する報告を行いました。夜空の明るさを測定する機器である SQM (SkyQualityMeter) の説明を簡単にして、一宮高校地学部の生徒が最近の研究トピックを紹介しました。その後再び高村から、観測ネットワークの広がりについてと研究の問題点を説明しました。



図7 SQM が広げたネットワークの輪

この2つの講演で、全体会は終了です。ここで、帰りのバスまではまだ時間があったので、記念撮影を行いました。生徒たちは交流で知り合った仲間と名残惜しそうにしていました。全国フォーラムの良いところを示すシーンでしょう。

5. おわりに

Astro-HS ではマンパワーが不足し、以前の勢いはありませんが、戸畑高校の井上先生をはじめとする教員スタッフと大学生スタッフの協力のおかげで何とか全国フォーラムを無事終えることができました。顔を合わせたの交流会は大変有意義で、生徒も顧問・スタッフも楽しい時間を過ごせました。来年度の日本天文学会は3月17日(土)千葉大学で、フォーラムの会場は未定ですが、翌日の18日(日)に実施の可能性が高いです。また来年も全国フォーラムでお会いしましょう。

※解像度の高いカラーの画像は以下で見られます。

<http://astro-hs.sakura.ne.jp/forum2017report/>